

# 浄泉寺通信

第14号  
年4回発行

浄土真宗本願寺派  
吉見布教所浄泉寺  
埼玉県比企郡長谷  
1678-6

発行責任者 福井学誠

作家の高史明<sup>コシマユキ</sup>さんをお招きし、10月4日に第3回「いのちの講演会」を開きました。以下はその抄録です。

現代を生きる人間のひとり



高史明さん

として、親鸞聖人の教えをみなさんと一緒に味わってみたいと思います。親鸞聖人の教えのなかに「自然法爾<sup>じねんぽうに</sup>」というものがあります。自然と書いて江戸時代まで「じねん」と発音されていたわけですが、明治時代に「しぜん」と発音されるように変わった背景に、英語のNatureの訳語にどの日本語を宛てるかを考え、自然が使われるようになったわけですが、「じねん」と発音されていた漢字が「しぜん」と発音されるように変わったことは、非常に深い意味があるように思います。「じねん」と発音していたそのときの日本は、アジアを見るときにヨーロッパと日本の落差を通してアジアを見ていたということもあるかと思えます。そういう意味では必ずしも敵対的でなく、両者の長い歴史が生きていた。しかしながら「しぜん」と読みが変えられ、ヨーロッパの横文字で書かれる自然が日本の近代化の要となるにつれ、朝鮮や中国や他のアジアの国々を見るときの日本の視線は、自分たちが一歩早く近代化を成し遂げたことで、朝鮮や中国を下位に見るといふ背景がありました。長い長い日本と東アジアの国々の関係は、そこで壊れていくことになりました。アジアと日本、全体との関わりでいま生きて

いうことになっていくか、歴史をひとつ振り返ってみてみたいと思います。

沖繩と日本との関係です。沖繩出身の佐喜眞道夫<sup>さきまみちお</sup>さんが沖繩に美術館を開き原爆の図を展示なさって、非常に熱心にこれからの平和を見つめようとしておられますが、この方の言葉を借りますと「沖繩戦でアメリカ軍は沖繩にすさまじい艦砲射撃を加えた。1坪に1トンの砲弾、合計20万トンもの砲弾を撃ち込みました。米軍が大和に落としたり総トン数は16万8千トン、それに対して沖繩は20万トンもの砲弾が集中した」とあります。これは爆弾の数で、東京は完全な焼け野原になりました。大和全体で16万8千トンに対し、あの小さな沖繩だけで20万トン。戦後、真宗大谷派の当時の総長が沖繩で戦死者追悼法要を勤めるので一緒に来いと誘ってくださって、家内とふたりで行きましたとき、女子どもが飛び降りた崖上に案内されましたが、そこへ行きます途中にも沖繩の大地には無数の人骨が眠っていらっしやると聞いて、私はもはやその見学団に付いていく

ことができませんでした。皆さんと離れて人気のない海際に行きまして、見学が終わるまで沖繩戦を想像しながらただ海を見つめておりました。日本列島全体に落ちた爆弾の犠牲者、同時に朝鮮や中国の犠牲者の数も、あるいはその涙もこれからの私たちの行先を照らす灯台になってくれるものだと思います。「よしあの文字を知らぬひとはみな、まことのこゝろなりけるを、善悪の字しりがおほおほそらごとのかたちなり」と親鸞聖人はおっしゃっておられます。聖人の時代と現代とは天地がひっくり返るほどの違いがありますが、聖人は善悪の字を知ったように生きる人間を虚像であると指摘されます。現代において、他人事としてでなく、地球全体の最大の問題として核爆弾を考えますと、たった一発の原爆で広島も長崎も壊滅しました。現代はさらに大きな核融合爆弾というものを作りました。

それは広島と長崎に落とされた原子分裂爆弾の2千倍から3千倍という巨大な威力をもつもので、日本列島はわずかに4発で全く壊滅するといえます。これを見過ごしたままでは、子どもたちに日本列島のことを本当の意味で伝えることはできないと思つたのです。阿弥陀如来は何もないところに突然お生まれになられたのではないと、親鸞聖人は深く味わわれました。つまり、「人々の平和、幸せが得られない限り、私は最後まで悟りを開くことはない」と誓われて、阿弥陀如来はお生まれになられた。その阿弥陀如来の願いが見えていない時代を、親鸞聖人は末法五濁<sup>まっぽうごじゆく</sup>と言われました。私たちは末法を生きているのです。

私は思います。毎日毎日、人間は掌を合わせてお念仏する毎日が無くてはなりません。科学の時代だからこそ、それが無くてはならないのです。学問ではない。念仏ただひとつをいただいでいく。阿弥陀如来のお心をいたたくならば、不幸な人がこの世にいるならば、私は助からなくて良い。私が助かりたいのではなく、私の隣に不幸な人がいたら私はその人と一緒に生きていくという世界になったとき、子どもたちに本物の世界が示されるのでありましょう。(談)

う意味では必ずしも敵対的でなく、両者の長い歴史が生きていた。しかしながら「しぜん」と読みが変えられ、ヨーロッパの横文字で書かれる自然が日本の近代化の要となるにつれ、朝鮮や中国や他のアジアの国々を見るときの日本の視線は、自分たちが一歩早く近代化を成し遂げたことで、朝鮮や中国を下位に見るといふ背景がありました。長い長い日本と東アジアの国々の関係は、そこで壊れていくことになりました。アジアと日本、全体との関わりでいま生きて

いうことになっていくか、歴史をひとつ振り返ってみてみたいと思います。

沖繩と日本との関係です。沖繩出身の佐喜眞道夫<sup>さきまみちお</sup>さんが沖繩に美術館を開き原爆の図を展示なさって、非常に熱心にこれからの平和を見つめようとしておられますが、この方の言葉を借りますと「沖繩戦でアメリカ軍は沖繩にすさまじい艦砲射撃を加えた。1坪に1トンの砲弾、合計20万トンもの砲弾を撃ち込みました。米軍が大和に落としたり総トン数は16万8千トン、それに対して沖繩は20万トンもの砲弾が集中した」とあります。これは爆弾の数で、東京は完全な焼け野原になりました。大和全体で16万8千トンに対し、あの小さな沖繩だけで20万トン。戦後、真宗大谷派の当時の総長が沖繩で戦死者追悼法要を勤めるので一緒に来いと誘ってくださって、家内とふたりで行きましたとき、女子どもが飛び降りた崖上に案内されましたが、そこへ行きます途中にも沖繩の大地には無数の人骨が眠っていらっしやると聞いて、私はもはやその見学団に付いていく

ことができませんでした。皆さんと離れて人気のない海際に行きまして、見学が終わるまで沖繩戦を想像しながらただ海を見つめておりました。日本列島全体に落ちた爆弾の犠牲者、同時に朝鮮や中国の犠牲者の数も、あるいはその涙もこれからの私たちの行先を照らす灯台になってくれるものだと思います。「よしあの文字を知らぬひとはみな、まことのこゝろなりけるを、善悪の字しりがおほおほそらごとのかたちなり」と親鸞聖人はおっしゃっておられます。聖人の時代と現代とは天地がひっくり返るほどの違いがありますが、聖人は善悪の字を知ったように生きる人間を虚像であると指摘されます。現代において、他人事としてでなく、地球全体の最大の問題として核爆弾を考えますと、たった一発の原爆で広島も長崎も壊滅しました。現代はさらに大きな核融合爆弾というものを作りました。

それは広島と長崎に落とされた原子分裂爆弾の2千倍から3千倍という巨大な威力をもつもので、日本列島はわずかに4発で全く壊滅するといえます。これを見過ごしたままでは、子どもたちに日本列島のことを本当の意味で伝えることはできないと思つたのです。阿弥陀如来は何もないところに突然お生まれになられたのではないと、親鸞聖人は深く味わわれました。つまり、「人々の平和、幸せが得られない限り、私は最後まで悟りを開くことはない」と誓われて、阿弥陀如来はお生まれになられた。その阿弥陀如来の願いが見えていない時代を、親鸞聖人は末法五濁<sup>まっぽうごじゆく</sup>と言われました。私たちは末法を生きているのです。

私は思います。毎日毎日、人間は掌を合わせてお念仏する毎日が無くてはなりません。科学の時代だからこそ、それが無くてはならないのです。学問ではない。念仏ただひとつをいただいでいく。阿弥陀如来のお心をいたたくならば、不幸な人がこの世にいるならば、私は助からなくて良い。私が助かりたいのではなく、私の隣に不幸な人がいたら私はその人と一緒に生きていくという世界になったとき、子どもたちに本物の世界が示されるのでありましょう。(談)

### 子ども寄席開きました



埼玉大学落語研究会のお姉さんとお兄さんをお招きして、8月3日「子ども寄席」を開きました。夏休みに入ったばかりで、近所の子どもたちはとても元気。落語を聞いて笑った後、みんなですれすれめんとをいただきました。写真中央左のお姉さんが部長さんで、お父様のご実家が島根県松江市の本願寺派寺院という縁でしたので、あまりの偶然にこちらも驚きました。お姉さんお兄さん、そしてお手伝いいただいた皆さま、ありがとうございました。

築地本願寺で法名をいただくご案内です。浄土真宗では戒名と言わず、帰敬式という儀式を受けた方に法名が授与されます。儀式は京都のご本山、もしくは築地本願寺に限り、ご希望の法名を「内願」といいます。が、書類申請に時間が必要なので、今回は「御門主様に選定いただいた」法名授与になります。不安な方のため、ご一緒いただけますので、お寺まで気軽にご相談ください。

### 築地本願寺での法名授与のご案内

■11月11日(火)～15日(土) 15時頃～16時30分頃、16日(日) 11時頃～12時30分頃の各日一回のみ

埼玉浄泉寺はこれまで埼玉県比企郡吉見町の借家で活動して参りましたが、このたび富山浄泉寺の名義で同じ町内に土地と建物を購入し、移転いたしましたので、ご報告いたします。移転先は東松山市を一望する小高い山の頂にあつて緑に囲まれ、見通しの良い日は遠く富士山も望めます。七百坪ある敷地に築百年以上の二階建ての立派な古民家と、数寄屋造りの平屋が並んで建っています。今後は古民家の内部を改修し、本堂とする予定です。地方では過疎が進み、後継住職不在で空き寺となるケースが増えていますが、空き寺になった本堂を社会福祉法人が買い取って日帰り温泉としてリニューアルし、地域住民で賑わっているという活用例はあるものの、その逆で、誰も住まなくなつた古民家をお寺として再利用したという例は聞いたことがなく、極めて珍しい取り組みになるでしょう。今後は古民家の外観をそのまま残し、内部に富山浄泉寺の隣寺だった紫雲寺様(解散のお内陣を移築し、広い土間だったところは木の薫り満ちる憩いの場に改修してグランドピアノを置き、コーラス練習と演奏会、坊守が指導しているヨガの会場や映画の上映会など地域の縁づくりの場になればと思います。改修工事は来春までの予定で、経過を随時ご報告いたします。(任職)

【浄泉寺の今後の活動】  
 10月17日(金) 19時 親鸞聖人御消息講座(第11回) フレサよしみ(埼玉県吉見町)  
 11月15日(土) 13時 報恩講話出講 誓願寺(群馬県前橋市)  
 11月21日(金) 19時 親鸞聖人御消息講座(第12回) フレサよしみ  
 12月19日(金) 19時 親鸞聖人御消息講座(第13回) フレサよしみ  
 12月20日(土) 14時 写経会  
 浄泉寺仮本堂(吉見町)  
 12月31日(水) 16時 除夜会  
 浄泉寺仮本堂(吉見町)  
 1月1日(木・祝) 8時 元旦会  
 浄泉寺仮本堂(吉見町)